

はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 特集 心あたまる場所。檜枝岐村～尾瀬とともに、いつまでも～
- 05 連載コラム～認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬～
 - ① ゆっくり歩いて、写真撮影やスケッチもイイネ
 - ② 名前にとらわれずに、尾瀬の魅力ある景色を楽しんで
- 06 現地情報
 - 原をわたる風だより
 - 番外編（1）第1回冬期調査
 - 番外編（2）移動尾瀬自然教室
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 TOPICS
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2015.2 vol.26
(公財)尾瀬保護財団



①



②



③



ここは、どこ??

※撮影日：2015/02/03

(答えは p.4 にあります)



特集

心あたたまる場所。檜枝岐村 〜尾瀬とともに、いつまでも〜

冬の檜枝岐へ

福島県南会津郡檜枝岐村。全国でもっとも人口密度が低いこの村は、福島県側の尾瀬の玄関口として知られるほか、檜枝岐歌舞伎や山人（やもど）料理など、厳しい環境の中で独自の文化を現代まで守り続けてきました。その魅力を探りに、雪深い2月の村を訪ねました。



「この奥に村があるなんて思わなかった」



▲環境省檜枝岐自然保護官事務所
アクティブレンジャー・長峯彩さん

外から檜枝岐にやってきた人にこの村はどう映ったのだろう？環境省檜枝岐自然保護官事務所アクティブレンジャーの長峯彩さんはかつて、アクティブレンジャーになる以前に会津駒ヶ岳に登山に訪れた際、登山口からもっと奥にこの村があるということを知らずに帰ってしまっただけです。しかしその後、檜枝岐村に暮らしてみても、村の印象をこう語ってくれました。

「四季の変化がとてもきれい。そしてとにかく村の人がみんなあたたかい。豊かな文化・歴史を持っているのに、みんな人がよすぎるのか、観光資源としてガツガツPRしているような感じがしない。でもそれもいいところ」

毎年苦労する冬の除雪も、難儀しているところからともなく村役場の人が

「びゅーっ」と飛んできて助けてくれるのだそうです。

ちなみに長峯さんの好きな檜枝岐の食べ物は「じゃがいもをすりつぶして平たくしたやつ」と「グミが中に入ったやつ」。取材時に宿泊した民宿の主人・平野志津男さんに聞いたところ「いもつたらし」と「グミ餡やきもち」だそうです。

「はっつ」と「裁ちそば」「岩魚」「舞茸ご飯」に「山菜」・・・、檜枝岐の山人料理はどれも地元産の食材を使用した手作りの料理。今は昔の話ですが、檜枝岐の人々が尾瀬に入ったそもそもの目的は「魚釣り」でした。尾瀬の自然の恵みでもある山人料理を味わいながら、人間と自然の関わり方についても思いを巡らせました。

守り続ける自負と変化への挑戦



▲檜枝岐村企画観光課長 安達秀也さん(右)
尾瀬檜枝岐温泉観光協会事務局長 平野順二さん(左)

2014年シーズンの尾瀬入山者は約31万人。その入山口別の内訳では、群馬県側の鳩待峠が半分以上を占めているのは変わりませんが、比率を見ると鳩待峠が減少したのに対し、福島県側の沼山峠は増加に転じています。檜枝岐村にとってはいい兆候といえるのでしょうか。村の観光振興の最前線に立つ檜枝岐村企画観光課の安達秀也課長と尾瀬観光協会の平野順二事務局長が口をそろえたのは「実感としては増加したという感覚はない」ということ。滞在型観光の浸透を目指して様々な仕掛けを企画中だそうです。

新しい話題のひとつが2014年12月に整備完了した「御池古道」。御池〜モーカケの滝〜七入をつなぐ道です。



もともと、御池への車道が通じる前に歩かれていた道だといえます。とはいえ、当時、尾瀬への入山方法としては七入ヶ沼山峠を経て尾瀬沼に出る「会津沼田街道」がメイン。「御池古道」は誰が歩いていたのでしょうか。

「御池の先には開墾地があり、昭和30年代頃まで小学校の分校が3校あって往来があった。また、新潟へ抜ける道としても、地元の人に歩かれてきた道」(安達さん) 車道の開通とともに荒廃が進んだ区間もあり、七入から御池を通して歩くのは一般的なルートではなくなりましたが、2015年シーズンからは一般登山道としてトレッキングを楽しめるとのこと。どんな道なのでしょう。

「ブナの原生林の中を歩く道。尾根沿いなので明るい雰囲気、森林浴を楽しんだり、紅葉時期の散策も素晴らしい」(安達さん)

危険箇所も特になく、御池へ七入間の標高差約400mを1時間半〜2時間かけてゆっくり味わいながら歩けるとのこと。檜枝岐滞在の新たな魅力となりそうです。毎年秋季に行うイベント「ブナの森ウォーク」でも御池古道を歩きます。「村民



▲ 地元の食材を使用した手作りの山人料理

でない人も大歓迎」(安達さん)のイベントです。

檜枝岐村はただの「尾瀬の玄関口」ではありません。250年以上続いている伝統ある「檜枝岐歌舞伎」にはこんな工ヒソードも。

「かつて大手の旅行会社から、「うちのお客で観客を埋めることができるからツアーに合わせて歌舞伎をやってみられないか」と打診があったが、自分たちの歌舞伎は観光歌舞伎ではなく奉納歌舞伎なので、と丁重にお断りした。そういう自負があったからこそ、250年以上続

いてきた価値がある」(順二さん)

なんでも観光客におもねるのではなく、奉納という伝統的な目的のために続けてきた姿勢は変えないという思い。そこに持続可能な「文化」の姿を見たような気がしました。

一方で、新しい活力を生み出す活動もしっかりあります。観光協会、商工会の呼びかけで集まった村内の若手による「若者会議」では、村のキャッチコピーやターゲットを絞った観光モデルコースを考案中だそう。

「行政への不満を並べるのではなく、今あるものを生かしながら、自分たちでできることから変えていき、行政にも前向きな提言をする」(順二さん)ことを前提に議論を深めています。

会津駒ヶ岳、燧ヶ岳、至仏山、そして平ヶ岳と周囲に4つの百名山がそびえる檜枝岐村で、村の中心を流れる檜枝岐川で魚釣りを楽しみ、温泉に入って、手作りの山人料理を味わう。「食と温泉を利用した観光立村」を掲げる檜枝岐村の観光政策は村民一体となって進んでいます。

「みんなのひのえまた」

村内で民宿経営をするかたわら、村内散策のガイドや尾瀬認定ガイドとしても活動する星俊秀さん。行政に頼るだけでなく民間の力で村を活性化させていこうと設立された「みんなのひのえまた推進協議会」会長の顔も持っています。



▶ 村内ガイド 星俊秀さん

村内には、歌舞伎舞台の他にも六地藏や安宮清水などの名所・史跡があります。またそば打ちや歌舞伎化粧体験、岩魚取りなど体験型の観光メニューもあります。現在は、福島県の実境学習事業で訪れる学校の生徒を対象にした「檜枝岐はこういふところだよ」という解説活動

が主ですが、一般の観光客に対しても活動の幅を広げていきたいというのが俊秀さんの願いです。

ただ、「みんなのひのえまた推進協議会」のメンバーは、俊秀さんも含めて民宿経営などの本業を持っている人たちがばかりで、村内ガイド業はいわば「片手間」。規模を拡大し、専属でやればもっと活動は充実できるが、現状では本業をおろそかにはできないというジレンマを抱えています。檜枝岐村ではどの民宿に泊まっても地元産食材を使用した手作りの「山人料理」を味わえますが、それもそれぞれが小さな規模で営んでいるからこそ可能なことなのです。さらに、福島第一原発の事故による空間放射線量や農産物への風評被害はいまも完全になくなってはいないという厳しい現状もあります。時代とともに村の中も昔とは変わらざるを得ない部分もあります。

「ずっと、村民はみんな持ちつ持たれつでやってきたけど、昔に比べるとそういった風習もちょっと弱ってきているところはあります。それは時代もあるからしょうがない。前は運動会があれば村民がみんな楽しんで、それぞれ料理やお酒を持ち寄って、夜は公民館を貸し切ってみんなで集まったりしました。ああいう雰囲気よかったなあ、またやりたいねと仲間と話したりするけど、いまは自分も言め商売をしている家も多いし、それぞれの都合もあるから、なかなか昔と同じようにはいかなさ」

それでも変わらざるにある「檜枝岐村のよさ」とは何でしょうか。俊秀さんはこう答えてくれました。

「村民はみんな、地元を大切に思い、大事にしている。各論では意見が違つことがあつても、総論は同じ（気持ちを持っている）」

檜枝岐村も時代の趨勢と無縁ではいられず、過疎化による人口減少が進み、観光需要による村内活性化を模索しているのは他の多くの中山間地と同様です。その手法や方向性を巡っては温度差や考え方の違いも当然出てくるもの。ただ、み

んな檜枝岐が好きで、村を大切にしていきたいという点では同じ気持ちを持っており、その気持ちこそが村全体の財産なのではないかと思えます。

.....
いつ訪れても、檜枝岐村の人はみんなあたたかい。山があつて、村があつて、人がいる。夕暮れの村内にぼつぼつと家々の明かりが灯るように、訪れた人の心の中にも、ぼつと小さな明かりが灯るような場所・檜枝岐村。この村が、いつまでも心あたたまる場所であり続けることは、とりもなおさず、尾瀬がいつまでも美しい場所であり続けることでもあるのだろうと、取材を終えて改めて感じました。

(長谷川至洋)



▲ 雪下ろしの様子(上)
子どもがそりに乗ってひかれていました(下)

【表紙の答え】

- ① 檜枝岐歌舞伎舞台
- ② 六地藏
- ③ 三尾瀬公園

※全て檜枝岐村内の名所・旧跡です。冬の里を訪ねてみませんか？

■連載コラム

認定ガイドがススめる っておきの尾瀬

その27 『ゆっくり歩いて、写真撮影やスケッチもイイネ』

<松前雅明 (尾瀬自然ガイド)>

(尾瀬自然保護指導員福島県連絡協議会 Tel 090-8928-2223 URL なし)

A4 ①まだシカの食害等が表面化して持参しませう。
A3 ①ルーペ(5倍くらい)・花びら等の拡大観察→不思議な模様を見ることが出来ます。②シート:食事時や休憩時に便利です。③ポケット図鑑:ありきたりながら、持ち歩いているといいですよ。④地図:当然ながら、必需品です。⑤ビニール袋:ゴミ入れとして持参しませう。

A1 尾瀬沼一周も尾瀬ヶ原散策も、ゆっくり歩きたい。花、植生、木道、風をのんびり楽しみ写真撮影をしたりスケッチしたりするのモイイネ。御池駐車場周辺の田代や湿原は、家族連れや体力に自信のない方たちでも足を運びやすい場所です。
A2 私は燧ヶ岳への登山道、特に熊沢田代の風景と雰囲気が好きです。
尾瀬沼一周(南岸コース)は、比較的静かに歩けます。上田代、横田代からの平ヶ岳の眺望も素敵です。



する前に、沼山峠から御池に向かうハスの前をシカが横切った、その姿はとても美しく、感動しました。その時は現在のようない大問題になるとは予想もしなかったです。

②平成一四年の春、沼山峠バスプールに入山待ちの登山者の列ができていました。あまりの人の多さに、入山をためらう家族連れもありました。そのような方たちを御池から裏燧ヶ原道に案内し、とても喜んで頂いたことがあります。

A5 このアンケートを依頼されて、しばらく尾瀬に行っていないことに気が付きました。抱負は、尾瀬に目を向け、足を向け、ゆっくり歩き楽しみたい、目標は、季節ごとに尾瀬を訪れること。ユーモアを交えて説明すること。ガイドとしての感性を磨くこと。意気込みは十分にありますが、関わっている事業とどう時間を調整できるか、が課題です。

◆尾瀬ガイド協会◆
 (事務局: (公財)尾瀬保護財団)
 ●Tel: 027-220-4431
 ●Fax: 027-220-4421
 ●URL: <http://www.ozeguide.net/>

※このコラムは、尾瀬ガイド協会(群馬支部・福島支部・新潟支部のいずれかに所属する諸団体のガイドさんたち)尾瀬認定ガイド資格をお持ちの方に對してアンケート形式で取材していただいております。

その28 『名前にとらわれずに、尾瀬の魅力ある景色を楽しんで』 <小林慎治 (尾瀬自然・登山ガイド)>

(NPO 法人片品・山と森の学校 Tel 080-5175-4673 URL <http://katashina.info/>)

A3 必需品は、①ビニール製の買い物袋(スーパーやコンビニでもらえる袋)です。特に雨の時は濡れては困るものを入れたり、逆に濡れたものを入れるのにも使えます。雨具のスポンをはく時、靴にビニールを覆ってはおくとズボンの中も汚さずに済みますよ。②温かい飲み物も良いですね。夏でも寒く感じる時もある尾瀬です。休憩中ほっと一息いかがですか？

A2 熊沢田代は私にとって特別です。なぜなら私が「尾瀬でガイドをしよつ」と決めた場所だから。特に燧ヶ岳山頂から御池に向かう下りのルートです。視界が一気に開けて湿原しか見えないあの景色。最高です。もう一つは**大清水**。人にほとんど会わないのが良いです。それが逆にちよつと寂しくもありません。大清水では木道に寝ちやいませう。新しい尾瀬に出会えること間違いなしです。

A1 尾瀬を楽しむには、何も考えずに歩くことです。花の名前や山の名前はどうでもよい。名前にとらわれてしまつと、せつかくの気持ち良い時間がもつたない。そして、次に来た時に興味を持ったものを調べればよいのではないのでしょうか。その時はビニールセンターを利用すると効果的です。また、色々な山小屋に泊まつて山小屋の違いを楽しむのもおススメです！ご主人や女将さんの人柄、食事や施設からの景色など。



A5 尾瀬は本当に素晴らしい場所です。そして尾瀬の一番の魅力は景色だと思っています。その魅力はどう伝えていけば良いのか、毎日悩みのためですが、尾瀬の魅力を自分なりに発信できたらと思っています。国内の方々はもとより、外国の方々もお越しになつた時に素晴らしいと感じてもらえるガイドを目指します。また今後はお一人で尾瀬にお越しになつた方へのガイドを広げていきたいと思っています。

A4 ガイドをしていて驚いたのは銃声を聞いた時です。そう、二ホンシカの駆除のための銃声です。私個人としては、結論から申しましてシカの駆除は致し方ないと思っています。ただ、シカは害獣なのではないでしょうか？どの生き物にとって害なのではないでしょうか？シカを悪者にする方がいます。ガイドにもいます。シカは本当に悪い生き物なのではないでしょうか？シカが増えた原因は？尾瀬にどうのシカの現状を考える良い経験でした。

[ガイドさんへの質問事項]

- Q1 尾瀬の楽しみ方
- Q2 オススメの尾瀬スポット
- Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
- Q4 思い出のエピソード
- Q5 今後の抱負・目標

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

番外編(1)

第一回冬期調査

尾瀬国立公園は福島県、群馬県、新潟県、栃木県の4県にまたがって位置しています。その各方面に入山口が整備されていますが、尾瀬へとつながる道路は、例年では十一月上旬～中旬までには閉鎖され、尾瀬は長い冬を迎えます。そのような中で、私たちは特別な許可をいただき、十一月二十七日に入山口の1つ鳩待峠へ向かいました。

今回、鳩待峠へ向かったのは、道路の閉鎖から約半月、群馬県尾瀬山の鼻ビジターセンターとその周辺施設の点検を行う冬期調査を実施するためです。この調査は、下山後事務局でのスーツ姿に慣れた頃にはやってきます。これから迎える厳しい冬を前に、各施設に異常がないか1泊2日でチェックを行います。

鳩待峠に到着するとあいにくの雨。この日は暖かく、雪には変わりそうもありません。また、道路閉鎖後の積雪量心配していましたが、積もっているのは二十センチ程でした。まだ「厳しい冬」ではなさそうです。鳩待峠から私たちがシーズンを通じた山の鼻ビジターセンターがある山ノ鼻地区までは、一時間程の下り道です。歩き始めると、鳩待峠では少ないと思っていた雪も木道を隠すには十分で、さらに木道も凍結していて注意が

必要でした。

「僕ら以外は誰もいない」そんなことを思いながら歩いていると、ハッキリと私たち以外の足跡がありました。尾瀬に入る前からいるだろうとは思っていましたが、実際に足跡を見付けるとやはり残念な気持ちになります。それは近年、各地で問題になっている二ホンジカの足跡でした。人間がいなくなり、夏よりも自由に歩き回っている様子が想像できません。



山ノ鼻地区に到着すると、ビジターセンターがお出迎え。十一月上旬に下山した時と特に変わりなく、冷えた私たちを迎えてくれました。やはり尾瀬のシーズンを住み込みで過ごした場所、僅か半月離れていただけで、懐かしさを感じてしまいました。自分の家でもないのに、「帰ってきた」と感じさせてくれる場所です。

暫しの休憩を取った後、竜宮という尾瀬ヶ原の真ん中辺りにある公衆トイレの点検に向かいました。木道上の雪は概ね溶けていましたが、池塘の多くは氷の膜を張っています。まだまだ厚さが十分ではなく、少し体重を乗せただけで簡単に割れてしまいます。

そして、シーズン終了後の尾瀬ヶ原では、注意しなければならぬことがあります。それは、尾瀬ヶ原に架かる橋です。これらの橋は、シーズン終了際に橋板が撤去されます。これを行わないと、雪

の重さで橋が壊れてしまいます。自然の凄さを思い知らされる話です。竜宮までいくつかの橋を越えなければなりません。が、橋板がないため、橋桁(鉄骨)の上を少しずつ渡っていきます。この渡っている様子を



見ていると面白い。真剣に渡っているからこそ面白いなと思います。ただ、橋の下に見えるのは湿原ではなく冷えた川、真剣になるわけです。

竜宮での点検が終わる、再び橋を越えてビジターセンターまで戻ります。作業を終了し暖まりながら翌日に備えます。冬期は施設の関係で、お風呂に入れないなど不便な部分もありますが、暖が取れるだけでもありがたいものです。夕飯をとると、疲れた身体に力が戻るようです。みんな暖まった後、各自床に就きます。

2日目、早くも鳩待峠まで戻る日となりました。この日は初日と打って変わって雲一つない快晴です。至仏山を見ると、「山頂はどんな感じになっているのだろう」と考えてしまいます。また雪で太陽の光が反射され輝いています。西側



を見ると、燧ヶ岳がそびえています。2つの山はシーズン中に何度も登りましたが、冬の姿もまた美しく、自然の偉大さを感じさせてくれます。

この時期は花は咲いていませんが、周辺の木々に目をやると、来春に向けて冬芽を付けています。冬芽は、なかなか注目することがないかもしれませんが、面白いものでもありません。また、葉の柄が付いていた痕を葉痕と言いますが、これが様々な顔を見せてくれます。



下の写真は、キハダの葉痕です。まさに顔のように見えます。冬は花が少なくなる時期ではありますが、このような様々な顔を観察してみるのも面白いのではないのでしょうか。皆さんの周辺の木々にも隠れていますので、ぜひ探してみてください。

この第一回冬期調査は、積雪量の多い年もあるようですが、今年は何事もなく終えることができていると安心です。今回の調査は3月上旬に行う予定です。その時には、「厳しい冬の尾瀬」をご紹介します。

(宇野翔太郎)

番外編(2)

移動尾瀬自然教室

尾瀬保護財団では群馬県から委託を受けて、「移動尾瀬自然教室」を実施しています。



尾瀬は冬の間、深い雪に閉ざされ、道路閉鎖に伴い、ビジターセンターも閉鎖しています。そのシーズンオフの冬季を利用して、シーズン中に現地のビジターセンターに常駐していた職員が、群馬県内の小中学校に出向き、出前授業をしています。

主に尾瀬の自然のしくみや自然と人とのつながりから、私たちが自然を守るためにできることを伝えるのが目的です。

群馬県では、群馬の子どもたちに一度は尾瀬を訪れてもらいたいと、小中学校を対象とした「尾瀬学校」事業を実施しており、県内の6割近くの子どもたちが参加しています。

移動尾瀬自然教室では、尾瀬に行ったこ

このない子どもたちや、これから尾瀬に行く子どもたちを対象としています。

群馬県に住んでいても実際に尾瀬がどこにあるのか、どういった場所か知らない子どもたちもいます。そのため、まず最初に「尾瀬ってどこにあるの？」という話から始めます。尾瀬の広さ、気温などをクイズ形式にして、子どもたちに楽しく参加してもらいながら学んでもらいます。

それでも、尾瀬を知らない子どもたちには、なじみのない場所です。

そこで登場するのが群馬県民にはおなじみ、へ上毛かるたです。

「せ」仙境尾瀬沼、花の原

子どもたちからは、

「あ、見たことあるー」

「知っているー」

このかるたの絵札をみせると子どもたちとの距離がぐっと縮まります。

次に「尾瀬の生きものについて」。尾瀬には900種類を超える植物の他、多くの動物たちが生息しています。子どもたちの興味をひきつけるように映像の中に、ある動物の姿をこっそり隠します。ヒントを出しながら、何が隠れているかを探してもらいます。



また、実際にオコジョやヤマメの動画で動く姿をみてもらい、どんな様子だったか、

動画から気づくことを投げかけます。

他にも、尾瀬の動物たちのぬいぐるみや、剥製、毛皮を持参し、オコジョの毛色の違いや毛皮の肌触りなどを実際に触って楽しく学んでもらいます。



聞いたことや、見ただけのことはずぐに忘れてしまいがちです。そのなかでもちよつと自分で探したり、実際に触って体験することで、感性にうったえかけ、自然をみる目を養います。

後半の授業では「尾瀬のつながり」を考へてもらったためにワークシートを使って、尾瀬に住む生き物などで、関係があるものを線でつないでもらいます。

尾瀬の生き物は、それひとつひとつでは生きていくことができないということや、食べる食べられるの関係、呼吸や光合成に必要な太陽や空気など大事な要素も踏まえつつ、尾瀬のつながりを考えてもらいます。そして最終的には、遠い存在ではない、私

たちも尾瀬につながっているということがわかってもらえるように促します。



最後に「尾瀬の自然を守る取り組みについて」説明します。どのようにして今の尾瀬を守ってきたのか、その保護の方法について、さらに私たちが尾瀬を守るためにできることなどを伝えていきます。またその守るための手段のひとつとして、我々、尾瀬保護財団やビジターセンターの仕事を紹介しています。

今こそ、環境問題や自然保護という言葉がよく耳にするようになりましたが、私が小学生の頃はそこまで浸透しておらず、今の仕事に就くなど想像もしていませんでした。世の中には、こんな仕事もあるということも知ってもらい、尾瀬のような自然はもちろんのこと、身近な場所の自然も目を向けてもらえようと心掛けながら授業をしています。

(大泉和寛)

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●尾瀬ボランティア総会を開催しました

2月14日(土) 埼玉県川口市(会場：埼玉県産業技術総合センター)にて、尾瀬ボランティア総会を開催しました。参加者は、ボランティアさん46名と職員6名、群馬県職員2名(ゲスト)。次のとおり、シーズンの振り返りと来シーズンに向けた意見交換を行いました。

(1) アイスブレイク〜同じ人探しゲーム〜

尾瀬ボランティアは、まもなく設立20周年を迎えようとしています。年齢もお住まいも異なり、平成8年度登録の第一期生から、今年度新規登録の新人ボランティアの方まで、活動経歴はさまざま。まずは「お互いを知ろう」ということで、自己紹介を兼ねたゲームを行いました。その名も、「同じ人探しゲーム」。「お住まいの都道府県が同じ人」「登録年が同じ人」などを、互いに声をかけ合ってみつけ、自己紹介をするというものです。

初めは緊張した面持ちだった皆さんも、自己紹介を重ねるうちに笑顔がこぼれるようになりました。ゲームで心をほぐした後に、ベテランさんと新人さんが散らばるかたちで4つの班を作っていました。

(2) 平成26年度「活動報告」クイズ

職員が今シーズンの活動実績に関わるクイズを、4択形式で出題。ボランティアさんには、班ごとに話し

合って正解を導き出していました。「入山口啓発活動の延べ活動者数」や「お話ボランティアの延べ活動者数」など、今シーズンの活動者数が少ないことを数字で実感するにつけ、皆さん寂しげな表情を浮かべていました。

(3) 平成27年度「活動計画」案の検討と発表会



尾瀬ボランティアの活動の基本で、最も大切なものに「入山口啓発活動」がありますが、近年、その参加者数が減少しています。熱心に活動をいただいているボランティアさんから「仲間がいなくて、寂しい」「入山者数が多い日には、全てに手が回らない状態」という声をいただいております。

財団として、どうすれば活動を活性化できるのか案を示しました。具体的には、平成27年度の新企画として「+α(プラスアルファ)の活動」を提示。入山口啓発活動、巡回美化活動と併せて「観察会」などを実施することを提案し、班ごとに話し合っていたいただきました。その後、各班の代表者が話し合いの内容を発表。新たな試みに前向きなご意見を頂戴したほか、活動者名簿を開示してほしいというお声をいただきました。ボランティアの皆さんが生き生きと活動できるよう、調整してまいります。



●平成26年度「活動報告」および平成27年度「活動計画」の作成について

尾瀬保護財団では、皆さまからお寄せいただいた平成26年度の活動実績を取りまとめ、「活動報告」を作成いたしました。

現在、尾瀬ボランティア総会で頂戴したご意見を反映させながら、平成27年度の「活動計画」を作成中です。皆さまの登録住所あて、3月中旬に発送させていただきます。来シーズンも、活動への積極的な参加申込をお待ちしております。

●尾瀬ボランティア証の発行について

平成27年は尾瀬ボランティアの2年ごとの更新年にあたるため、昨年12月に「登録更新」につきまして、一斉に意思確認をさせていただきました。年末年始のお忙しいなか、ご協力を賜り、ありがとうございました。「更新」としてご回答をいただきました皆さまには、3月中旬に活動計画等と併せて、新しいボランティア証(有効期間：平成27年4月1日〜平成29年3月31日まで)を発送させていただきます。お手元に届きましたら、ご確認ください。



【問い合わせ先】

企画課(尾瀬ボランティア担当：筆岸)

◎TEL:027-220-4431

◎FAX:027-220-4421

◎Mail:minegishik@oze-fnd.or.jp

トピックスTOPICS

●第19回NHK「わたしの尾瀬」写真展 (高崎展・前橋展)を開催しました (今後、東京・埼玉・新潟・福島を巡回予定)

平成26年12月に高崎シティギャラリーにおいて、27年1月に群馬県庁において、「わたしの尾瀬」写真展の高崎展・前橋展がそれぞれ開催されました。

第19回目となる「わたしの尾瀬」フォトコンテストには全国から863点の応募があり、会場にはその中から選ばれた50点の力作が展示され、大勢の方が来場されました。尾瀬には何度も通っている方も、まだ一度も行ったことのないという方も、写真を通して尾瀬の新たな魅力を感じていただけたようでした。また、若い頃に行ったきりという年配のお客様も感慨深そうに写真に見入っていました。



▲高崎展(展示会場)の様子

▼表彰式の様子



12月14日(日)には高崎会場にて表彰式・交流会が行われ、入選者の方々が多数参加されました。同日にはNHK公開セミナー「」につぼん百名山」も

開催され、300名近い方で会場は満員でした。

今後の巡回予定については、日程および会場が決定次第、当財団ホームページ並びにNHK前橋放送局ホームページにてご案内します。

【問い合わせ先】

NHK「わたしの尾瀬」実行委員会

(担当: 笹原・長谷川)

◎TEL:027-220-4431

◎FAX:027-220-4421

◎Mail:ha-sh@oze.fnd.or.jp



▲NHK公開セミナーの様子

●尾瀬ガイド協会「理事会」および「認定審査委員会」を開催しました

平成27年1月19日、埼玉県さいたま市(会場:Wi-thYouさいたま)にて尾瀬ガイド協会(事務局:尾瀬保護財団)の平成26年度第2回「理事会」および「認定審査委員会」を開催しました。

今回は、昨年夏から秋にかけて行われた平成26年度尾瀬自然ガイド検定及び同登山ガイド検定の結果について、まず午前中の認定審査委員会で審査が行われました。その審査結果に基づき、午後の理事会で検定合格者を認定ガイドとして認定することが承認され、44名の自然ガイド、5名の登山ガイドが新たに誕生しました。

今回認定された方々は平成27年シーズンから、晴れて尾瀬認定ガイドとしての活動ができることとなります。

その他、当日は平成27年度の新規事業やガイド検定試験の方式、尾瀬ガイド協会規約等について、活発な議論が行われました。

尾瀬認定ガイド制度もスタートから5年以上が経過し、これまでに約300名の認定ガイド(自然ガイド)が誕生しています。尾瀬ガイド協会にとって、今後は新たな認定ガイドを生み出すとともに、ガイド制度の認知度向上や認定ガイドの活躍の場を広げていくこともこれまでに以上に重要となってきます。

●尾瀬賞運営委員会を開催します

2月28日に東京都内で尾瀬賞運営委員会を開催します。当財団では湿原を対象とした学術的・学際的研究を奨励し、環境保護に関する関心を高めるために顕彰事業「尾瀬賞」を実施しています。

今回の会議では、第18回尾瀬賞の授賞候補者や第19回尾瀬賞の募集方法について話し合われます。

授賞者は3月に決定し、6月に授賞式と記念講演会が開催されます。授賞式・記念講演会はどなたでもご参加いただけます。詳細が決まりましたら、当財団ホームページでご案内します。是非足をお運びください。

●尾瀬国立公園協議会が開催されます

3月10日に埼玉県さいたま市(会場:環境省関東地方環境事務所)で「尾瀬国立公園協議会」が開催されます。関係者が一堂に会し、尾瀬国立公園の今後について、話し合いが行われます。会議は公開のため傍聴が可能ですが、事前申込が必要です。詳しくは、環境省関東地方環境事務所ホームページをご覧ください。



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの方：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日付順、敬称略



2015年2月6日寄付

公益財団法人コメリ緑育成財団

コメリ緑育成財団様より50万円のご寄付をいただきました。コメリ緑育成財団様からの寄付は、前身のコメリ緑資金の皆様からの寄付と合わせて、今回で6回目のご寄付となります。来年度もご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 3,000,000円)

寄付者からのメッセージ：当財団は、(株)コメリの利益の1%還元事業として1990年に設立した「コメリ緑資金」による緑豊かなふるさとづくりへの助成事業を引き継ぎ、2012年に公益財団として新たにスタートしました。私たちの住むふるさとが花や緑にあふれ平和で豊かであってほしいと願い、豊かな自然環境づくりや園芸農業分野における技術開発などへの助成を行っています。未来の子どもたちのために、尾瀬の美しい自然と豊かな生態系がいつまでも引き継がれていくことを願っています。



2015年1月30日寄付

アサヒビール(株)群馬支社

47都道府県において、アサヒスーパードライ、スーパードライ ドライブレミアムの缶、ビン及びスーパードライ ドライブブラックの缶1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成26年秋の第8弾キャンペーンにより236万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 27,957,751円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!プロジェクト“尾瀬の環境保全活動”」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様にご賛同いただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。



2014年11月20日寄付

株式会社セーブオン

平成26年5月13日～6月23日および9月1日～30日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 1,224,535円)

寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで永く守り続けるための活動を応援してまいります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額 539 万円余りをご寄付いただきました。平成 19 年より今回が8回目のご寄付となります。(通算寄付総額 50,583,957 円)



2014年9月12日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社

今年度は269万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 25,291,979円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



第四銀行

2014年9月12日寄付

株式会社第四銀行

今年度は46万円余りをご寄付いただきました。

(通算寄付総額 5,482,951円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



新潟証券株式会社

2014年9月12日寄付

新潟証券株式会社

今年度は7万円余りをご寄付いただきました。

(通算寄付総額 1,613,354円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



東邦銀行

2014年6月11日寄付

株式会社東邦銀行

今年度は94万円余りをご寄付いただきました。

(通算寄付総額 8,975,569円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。



群馬銀行

2014年6月10日寄付

株式会社群馬銀行

今年度は120万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 27,322,504円)

寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



福島銀行

2014年5月16日寄付

株式会社福島銀行

平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成26年3月末現在残高の0.01%に相当する、797万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 16,536,564円)

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取組んで参ります。

明日をもっとおいしく



2014年3月31日寄付

株式会社 明治

(明治様)の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回を含めて今後3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 450,000円)

寄付者からのメッセージ：明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させて頂きました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日付順、敬称略

共和工業株式会社

2014年10月20日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で6回目となります。(通算寄付総額 1,100,000円)

株式会社フレッセイ

2014年9月30日寄付

フレッセイと麒麟ビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売された麒麟ビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で5回目となります。(通算寄付総額 1,952,683円)

麒麟ビバレッジ株式会社

2014年9月30日寄付

フレッセイと麒麟ビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売された麒麟ビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、31万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で5回目となります。(通算寄付総額 1,745,946円)

群馬トヨタ自動車株式会社

2014年8月4日寄付

平成25年4月から平成26年3月までの間、群馬トヨタ自動車株式会社様にて自動車保険への加入者が、「レンタカー費用補償特約」を付帯することで、1契約につき50円が群馬県の自然保護活動への支援に充てられることになっており、当財団へ寄付をいただきました。今回で3回目となります。(通算寄付総額 447,850円)

株式会社ニチネン

2014年7月14日寄付

株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で8回目となります。

一般財団法人群馬県警察厚生会

2014年7月9日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で4回目となります。(通算寄付総額 400,000円)

株式会社読売旅行

2014年5月1日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。今回を含めて今後3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 100,000円)

株式会社コシダカホールディングス

2014年3月31日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、30万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 300,000円)

水上高原リゾート株式会社

2014年2月25日寄付

水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル(水上高原ホテル200)で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で3回目となります。(通算寄付総額 840,000円)

株式会社とりせん

2014年2月10日寄付

当財団の自然保護活動に活用していただきたいとのことで、10万円のご寄付をいただきました。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境関係に寄付するという事で社員の皆様から募金をしていただき、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は今回が2回目で、今回を含めて今後3年間にわたり継続してご寄付をいただくこととなっております。(通算寄付総額 1,158,391円)

エース株式会社

2014年2月5日寄付

エース株式会社様の尾瀬関連商品の売上の一部(10万円)をCSRの一環として当財団にご寄付いただきました。同社からのご寄付は今回が4回目で、今回を含めて今後新たに3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 1,000,000円)

カワラハンノキ・雌の赤い穂 (5-6月)

尾瀬では雪が解けるとすぐ、カワラハンノキの花が咲く。枝先に短い紐のような雄の穂が1-3個つき、風で揺れると、黄色い花粉が煙のように飛び立っていく。

雌の穂は赤く長さ4-6mmで枝先に立ち、丸い苞と細い柱頭(雌しべの先端)が螺旋状に並んでいる。風媒花なので目立たなくて良いはずだが、雌の穂は真っ赤。この赤い色素が紫外線を吸収して、柱頭で受けた大切な花粉を、紫外線の害から守っているのだ。同じ理由で風媒花の柱頭は赤色や紫色のものが多い。探してみよう。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報

第19回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【渋谷展】

- 開催期間 平成27年4月7日(火)～12日(日)
午前10時～午後6時
(但し、12日(日)は午後4時半まで)
- 会場 NHKみんなの広場 ふれあいホール
3Fギャラリー
(東京都渋谷区神南2-2-1)

【見附展】

- 開催期間 平成27年4月21日(火)～29日(水)
午前9時～午後6時
- 会場 ネーブルみつけ多目的広場
(新潟県見附市学校町1-16-15)

※変更になる場合があります

「友の会」コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※平成26年度から加入・更新時期が年4回(5月・8月・11月・2月)になりました

5月1日からの加入・更新をご希望の方は3月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口	2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口	1,500円
	ユース会員 (3/31現在、満22歳以下)	1口	1,500円
賛助	賛助会員 (団体・企業等)	1口	10,000円
	特別賛助会員 (団体・企業等)	1口	100,000円

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- ・友の会会員バッジ進呈、各種資料送付(初回加入時のみ)
- ・財団機関誌：配付(平成26年度は年3回発行予定)
- ・宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- ・尾瀬周辺施設利用料割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

※特別賛助会員枠を新設しました

<http://www.oze-fnd.or.jp>

編集後記

昨年11月に、尾瀬に通じる全ての道路が冬期間鎖されました。現地には訪れる人もなく、今は一面白銀の、静寂の世界が広がっています。当財団職員は調査・除雪作業のため、3月に入山予定です。暦のうえでは春を迎えましたが、まだしばらくは冬將軍が居座る模様。雪解けは、例年、4月下旬ごろとなります。来シーズンも皆さまのお越しをお待ちしております。(峯岸)



oze mobile
携帯サイト

お知らせ
緊急情報
ライブ映像
など
情報配信中

尾瀬の質問も
受け付けています
ツイッター

尾瀬情報
配信中

